

# KSKR だいかれん

公益社団法人大阪府精神障害者家族会連合会(大家連)

## 「備えあれば憂いなし」 家族のこれからの準備

副会長 山本美世子

整形外科クリニックの待合室で隣りに座った方が話しかけてこられた。

「私は90才で息子の家族と同居しているが、最初から台所・トイレ・風呂も全て別々、まわりに気を遣うことなく自分の事は自分でしている」と言われていた。その人の生活の姿勢が表面に現れる。歳を感じさせないとはこういう事かと自分も見習わなくてはと思った。

そのクリニックの院長は寡黙で飾らない人柄で優しい。患者さん一人ひとりにスタッフが優しい言葉をかける。院長の人柄や姿勢がそこで働く人たちに浸透している。

新型コロナウイルス感染再拡大で人と人との絆がますます薄くなりつつある。地域の家族会も開催できない事も多々あり、当事者会も発足したが継続して開催出来ない。

「あなたががんばっている事は私達仲間が知っていますよ！」そう言っ、自分自身も仲間から力ももらっている。

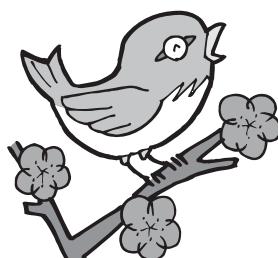
大家連は理事の世代交代、若返りを望んでいる。コロナ禍の状況で会議も自宅に居ながら出来るZOOM会議が多い。これなら働いている若い方も土日を会議に充てて活動していただけるのではと期待し

ている。

精神保健福祉講座も例年のように開催できず、2021年「親なきあと相談室」関西ネットワーク代表理事藤井奈緒氏講演」は、期間限定の動画配信と家族会や希望者にDVDの貸出しとなった。

「親なきあととは、親あるうちに備えよう、親が病気になる怪我、認知症などで家族と一緒に生活が出来なくなった時点から「親なきあと」が始まる、「親なきあと」わが子の支援者の方々に向けてのサポートブックも必要と藤井さんは言われている。

息子からそれを見れば毎日の暮らしが一人で出来るというハンドブックを作ったと言われている。やらねばならぬ事、まだまだあります。共に頑張りましょう。



### 目次

|                         |      |
|-------------------------|------|
| ◆ 「備えあれば憂いなし」家族のこれからの準備 | 1頁   |
| ◆ 家族会代表者会議を開催           | 2頁   |
| ◆ 大阪府へ要望書を提出            | 3頁   |
| ◆ オンライン みんなねっと          | 4～5頁 |
| ◆ 近畿ブロック 家族の集い in大阪     | 6頁   |
| ◆ グループホームの再編に反対 署名活動    | 7頁   |
| ◆ 北新地のクリニック放火殺人事件と報道    | 8頁   |
| ◆ 家族の思い                 |      |
| ◆ 大家連精神保健福祉講座           |      |
| ◆ 賛助会費報告・編集後記           |      |

## 家族会代表者会議を開催

昨年11月13日(土) 13:30～16:00に家族会代表者会議を開催しました。20家族会から出席があり、大家連の役員を含め26人の会議となりました。

### ○各家族会の現状

久しぶりの会議でもあり、自己紹介の後、家族会の現状についてアンケートに答えるという形で発言してもらいました。

### 《アンケートの内容》

- ・この1年間で、会員の新規加入は有りまし  
たか(あり、なし)
- ・どこで、紹介されましたか(保健所、作業  
所、会員の紹介、その他)
- ・会長の任期について(あと数年、この1  
年、すぐに代わりたい)
- ・後継者について(当てにしている人がい  
る、ほとんどいない、全くいない)
- ・会の活動状況について  
特に工夫している催しなど
- ・大家連への要望について(詳細は後述)

会員の新規加入は、いくつかの会であるが、紹介元(会員、作業所、障害福祉課、病院、電話相談広報誌・会報誌など)は多岐にわたっている。

### ○大家連の事業の状況

コロナの感染状況のもと、大家連の各事業の進め方などについて報告しました。

【電話相談事業】相談員9名を含め16名で実施、4～8月は、毎月約100件の相談

【精神保健福祉講座】6月に藤井奈緒氏による「親亡き後の備えについて」、7月に池上正樹氏による「8050問題を考える」、10月に加藤進昌氏による「発達障害について」(ZOOMウェビナーで東京から講演)、また圏域交流会としてZOOMセミナーを実施

【たいかれん誌】年間4回の発行、編集委員会(委員6名)をスマホのラインアプリで実施

### 【政策委員会】

大家連要望を刷新し、要望項目を絞るため、理事のほか有志の意見を取り入れる。今回大阪府へ要望書(p3参照)を提出、今後、精神科病院の630調査(精神科病棟の医療スタッフの配置状況、身体拘束など)の内容についても取り組む



(写真 三枝会 東氏提供)

### ○グループホームの再編について

厚生労働省は、障害者のグループホームについて、検討を始めた。

グループホームを「軽度」と「重度」に再編成め、その後は一人暮らしに移行(精神障害者が利用するものは概ねこれに該当)

「グループホームの再編に反対する緊急行動ネットワーク」などが署名活動を実施  
各家族会に署名活動に協力をお願いした。  
(この結果については、p5の「グループホームの再編に反対 署名活動」参照)

### ○大家連への要望について

- ・医療費の助成を増やすよう頑張ってもらいたい
- ・新型コロナウイルス治療に関する緊急要望書を早急に出していただけて良かった
- ・ホームページの更新が遅い
- ・精神保健福祉講座を大阪市外でもやってほしいし、或いは圏域交流会の時にやって欲しい
- ・よくやっていただいていると感謝している  
とにかく継続してほしい
- ・当事者や家族の問題をテーマにこういう場で討議して欲しい
- ・命についてしっかりと考えて欲しい  
(三枝家族会の東さん、大家連理事の佐野さんの記録を参考にさせていただきます)

(文責 倉町公之)

# 大阪府へ要望書を提出

大家連発第9号  
令和4年1月24日

大阪府知事 吉村洋文様

公益社団法人 大阪府精神障害者家族会連合会  
会長 倉町 公之  
(公印省略)

## 2021年度 大家連 要望項目

本年度は、コロナ感染の増減を繰り返し、大家連活動もその状況のなか、様々な制約を受けてまいりました。年度の残りも少なくなりましたので、例年の要望項目から精査し本年度は以下について要望いたします。

これらの要望につきましては、文書による回答をお願いし、そのうえで、大家連との意見交換の場の設定をお願いいたします。(※注)

### 【医療】

- ① コロナ感染の際、精神科医療機関入院者および地域医療機関通院者のコロナ専門治療医療機関での治療を可能にする連携の在り方と、具体的な受け入れ医療機関を提示していただくこと。
- ② コロナワクチン3回目接種には入院中の精神科病院、通院中の精神科医療機関において可能にするよう、大阪府、市町村の医師会に働きかけていただくこと。
- ③ (精神障害者と家族からの) 24時間365日相談窓口の設置
- ④ 身体拘束の時間規定の実現 (WHO世界原則では上限4時間—現行 精神保健福祉法に時間規定なし) に向けて、医療機関での身体拘束・行動制限 (保護室使用など) 記録の義務化指導と患者側の人としての訴え、尊厳をくみ取った身体拘束・行動制限 (保護室使用など) の最小化 (時間のみならず飲料水、食事提供のありかた、トイレの水の自己管理、トイレトペーパーの設置、部屋の清潔、窓の設置など) への実地指導をしていただくこと。

### 【地域生活】

- ⑤ すべての市民への精神疾患理解及び精神障害者への人権教育の義務化を。

<内容>

『精神疾患に関わる理解』のテキストを作成し、学習の実施。

「障害者権利条約」「大阪府障害者差別解消条例」の要約テキストを作成し学習の実施  
家族の体験をお話する場の確保

<対象者>

大阪府下、公立、私立 小学校、中学校、高校、大学、専門学校すべての教職員、児童生徒、学生  
医療関係者 (医師、職員、看護師、薬剤師)

一般市民 (地域自治会、民生委員、事業所、行政機関、障害者施設事業所それぞれの全職員)

- ⑥ 「精神障害者にも対応した地域包括ケアプログラム」略称「にも包括」の早期具体化。

対象者と具体的な事業名の明確化と公表。

住まいの確保、訪問医療、その他の推進事業の具体的提示とその進捗状況と財政的裏付けと今後の見通しの公表。

- ⑦ 障害者虐待防止条例に医療機関、および幼稚園、保育所、公立、私立すべての学校を対象にすること。

※注 今回は府との協議で、文書回答のみとする

# オンライン みんなねっと

## 近畿ブロック 家族の集い in 大阪

2021年12月11日(土) 14:30~16:30

### 「考えよう新しい精神保健医療福祉」

#### 大和川病院事件、

#### 神出病院事件を検証する

\*当日の様子は大家連ホームページから YouTube で視聴できます。  
\*DVDの貸し出しも準備中です。

### ●開催までの経緯

「みんなねっと」近畿ブロック 家族の集いは原則毎年近畿2府4県の家族会が持ち回りで開催してきました。大家連は昨年度、開催を受けましたが、新型コロナ感染拡大で大家連はかつてない難しい運営をしながら、2020年、神戸市神出病院患者虐待事件発生の報道はあまりにも衝撃的でした。29年前の大阪の大和川病院事件の反省を踏まえ、虐待事件を繰り返す精神科医療の現実から目をそらすことなく、一緒に考えたいと、この集いを企画しました。

コロナ感染のリスクを避けるために人が移動しないだけで多くの方々が参加できるメリットを生かして、まだ不慣れな方々も多い中でしたが、オンライン開催を選択しました。

### ★第一部 講演

#### ○「大和川病院事件、神出病院事件を考える」

大阪精神医療人権センター

理事・看護師 有我讓慶氏

「世界の流れに逆行する日本の精神医療」「虐待事件の発覚が続く精神医療の構造的問題」として、精神科医療が収容として始まった歴

史を引きずっていること、(対人口比)入院病床が世界一多いこと、ヨーロッパと比較すると日本は強制入院者数が突出して多いこと、身体拘束の増加などを図解やデータを駆使して日本の精神科医療の抱える多くの問題をお話していただきました。

#### ○「何故、精神科病院現場で虐待がおこるのか」

#### 神出病院の虐待事案から考える

兵庫県精神保健福祉家族会連合会

会長 新銀輝子氏

病院、医療従事者は家族にとつてあまりにも「大きな支配者」で、牙を向けることの難しさがあつた。

しかし、6人の看護師が起こした特異な事件として終わらせてはならないと神戸市精神保健福祉士協会など6団体と神戸市への要望書、国への請願、署名活動を起こした。ただ様々な思惑(利害関係)で人権軽視の流れはなかなか止まらない。

困ったときには誰でもがSOSを出せる社会の実現が必要だと家族会の思いを強くした。

#### ○みんなねっと

#### 精神科医療への提言 2021

#### ◆誰もが安心してかかりたいと思える精神科医療の実現◆

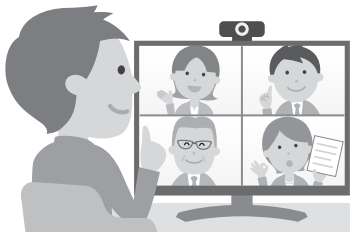
全国精神保健福祉会連合会  
理事長 岡田久実子氏

1. 市民のメンタルヘルスケアの充実

精神疾患に関する系統的な教育の実施

相談窓口の整備

2. 精神科医療の一般化の実現



3. 医療スタッフ配置と診療報酬の一般科との同等化

薬物治療とともに心理社会的支援が当たり前に受けられる方向への転換

多職種チームによる訪問医療  
対話型医療・支援の充実

家族による家族支援

家族心理教育・訪問の診療報酬化

4. 当事者の視点を大切にする精神科治療へ

当事者の意見を尊重した投薬治療

身体的健康に留意する精神科医療

#### 〈長期的展望に基づき目指すこと〉

入院中心から地域医療への転換

人口5万人ごとにメンタルヘルスセンター設置

医療保護入院(強制入院)の廃止

#### ○「なぜ長期入院と虐待事件が解消しないのか」

大阪府精神障害者家族会連合会  
副会長 大野素子

「社会モデル」(充実した共生社会作り)を支える社会保障費への国の財政基盤が日本は世界的に弱く、入院中心、長期入院の「医療モデル」(薬と入院で治療する)偏重が断ち切れない。医療モデル依存、やせた社会的支援、疲労して声を上げない家族、医療法人理事長発言「怖い人を収容する」体質の温存、などからまっとうな医療と支援からこぼれた社会的弱者が長期入院となり外から見えない閉鎖病棟で、虐待を受けやすい。困ったことを封印しないで、なんでもいえる家族会、声を上げる家族会を大切にしてゆくことが大切だ。

### ★第二部 シンポジウム

#### 「質問からシンポジストとの意見交換」

「何故虐待は繰り返されるのか」――  
精神科病院の成り立ちの歴史が「治安」か

(p5に続く)

ら始まり、その風土が脈々と続き払拭できていない。根っこは国が容認していることにある。日本の文化として人権意識が低い。厄介な人、価値のない人としての意識は変わっていない。

―医師と当事者・家族の関係は―  
見通しのない、漫然とした治療、入院(社会的入院)が容認されている。

治療への共同意思決定ができていないとはいえない。医師との力関係の差がある。

みんなねつとは国の「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム」検討委員会で、医療、支援にわたる当事者家族の立場と意見を強く訴えていく。

―精神疾患教育の遅れについて―

教職員の精神疾患理解度は低い。知識だけでは本当の理解とは言えない。教員養成課程で学ぶべき。中、高で文科省は精神疾患教育をカリキュラム化すべき。

―家族も当事者、家族支援の必要―

医療保護入院、地域生活が家族に一手に背負わされていることは理不尽だ。

家族の人権も守られるべきだとして「ケアラー支援条例」が埼玉県で施行されている。

★各府県連会長挨拶

(みんなねつと、兵庫県は講演者として発言)

滋賀県連 川並会長

治療ではなく収容であった歴史を引きずっている。精神科特例がその根本にある。

京都府連 四方会長

京都でも同様な事件が起こっている。医師と医療スタッフが誇りを持てる労働条件整備を応援したい。精神障害者への医療費助成も喫緊の課題だ。

奈良県連 三島会長

家族へのニーズ調査をした。家族が背負い

すぎている状況が伝わっていない。家族自らも地域支援におもいが及ばないほど、情報もなく、抱え込みすぎている。

和歌山県連 大島副会長

精神医療審査会(医療保護入院、措置入院報告を基に適切性の審査)が形骸化している。和歌山県は家族も委員として参加している。県議会議員と家族の状況報告の場を持つている。

★アンケートから

家族会会員からの問題提起を基にした集いはわかりやすく有意義だった、大変勉強になった、など好意的な評価をいただきました。自らの問題として、もっと時間をかけて掘り下げたいという大変前向きなお声もいただきました。この集いの課題を今後につなげる必要も感じました。(報告 文責 大野素子)

《グループホームの再編に反対署名活動》

キャンペーン「障害者グループホームの再編に反対!グループホームは「訓練の場」ではなく「生活の場」です!」

大家連を通しての署名活動にご協力いただき有難うございました。

キャンペーン成功!全国の多くの障がい者団体と協同のもと37,688人の賛同者により、成功へ導かれました!  
(グループホーム再編に反対する緊急行動ネットワーク事務局報告)

令和3年6月に厚労省社会保障審議会障害者部会における、障害者総合支援法等の見直

し議論があり、グループホームを年限のある「通過訓練型」と重度の人むけの「一般型」にわけると案が提出されました。今の3類型(介護サービスクラス型/日中サービスクラス型/外部サービスクラス型)の再編や個人単位のヘルパー併用についても、検討されていました。つまり精神障がい者の殆どは、3年でグループホームから退去させられることとなります。しかも退去先の地域にも、多くの問題があります。

一人暮らしを実現していくために、所得や住宅の保障、日常生活を支える介護や支援を担う社会資源の現状もきちんと調査し、課題を整理していく中でその拡充策を検討すべきです。「訓練ありき」のグループホームの提案、本来は家庭的な場であるグループホームがより大人数になることを容認するかのような発言など、一人の人間としての当たり前の生活が脅かされています。障害者である前に一人の人間です、との理念のもと署名活動をおこないました。

12月3日の社会保障審議会障害者部会において、「本人が希望する一人暮らし等に向けた支援を目的とするグループホームのサービスクラス型を新たに設けることを含め、さらに検討していく必要がある」という表現に留まりました。

(グループホーム再編に反対する緊急行動ネットワーク事務局報告)

今後、私たち多くの障がい者団体は、障害のある人たちが自己実現できる社会を目指して取り組みを続けていきますが、現在の状況を「キャンペーンの成功」と捉え、一旦終了することを決めました。これまでのご協力をありがとうございます。心より感謝致します。(文責 佐野朋慶)

## 北新地の クリニック放火殺人事件と報道

昨年12月17日の北新地のクリニック放火殺人事件から、一月余りが過ぎました。

大家連は、「精神科通院歴あり」という報道に接して、12月24日には、大阪府下22の報道各社に、事件の背景にある社会的構造問題への冷静な取材、報道を願う旨、会長名で下記の「報道についてのお願い」を配布しました。「通院歴報道」が精神疾患を持つ人とは全く事件を起こす怖い人だ」との印象を各方面に広げることになりがちで、当事者、家族の暮らしを脅かし、事件の本質を見誤るものではないでしょうか。

事件後、容疑者が死亡すると報道から急速に関連記事が減り、この事件の抱えている「社会的弱者の孤立」の問題の風化が心配です。

1月17日付け 朝日新聞社説では「無差別殺傷 孤立社会の病が見える」として「(事件の) 病巣を探り、さらなる悲劇を防ぐことに、政府はもろろん、社会全体で取り組むたい」と結んで、冷静な問題提起を投げかけていました。大家連は各方面へ「孤立」への真剣な取り組みを訴えてゆきたいと思えます。

(文責 大野素子)

2021年12月24日

報道各社の皆様

公益社団法人 大阪府精神障害者家族会連合会  
会長 倉町 公之

### 大阪市北区心療内科クリニック 放火殺人事件報道についてのお願い

12月17日に大阪市北区の雑居ビル内のクリニックで25人の方が命を落とされた放火殺人事件の報道にふれて、犠牲者の方々がどれほど無念であったか、ただご冥福をお祈りするばかりです。

#### 【地域の当事者・家族の思いにご理解を】

事件報道の直後から、精神障害者を持つ家族や当事者から次々と不安と心配の声が寄せられてきました。

「通院歴があると報道されるだけで身の縮む思いだ。怖くてテレビをつけられない」「自分たちはいつか怖いことをする人たちだとおもわれる」などの動揺が伝わってきました。

昨今は精神疾患と障害を理解するための好意的な取材による番組が制作されるなど、以前より社会的な理解も進みつつあります。

ですが、精神疾患と事件のつながりの報道のたびに、前に進み始めた流れが逆流し、当事者や家族は「やっぱり地域にいるのでなく入院していてくれない」という無言の圧力を感じて辛く緊張してひっそり暮らすことを余儀なくされてしまいます。当事者たちの病状を左右してしまうことにもなりかねません。肩身の狭さで精神障害者や家族が追い詰められることがあってはなりません。

つきましては以下について、切にお願い申し上げます。

#### 1. 精神疾患と障害への正しい理解による報道を

事件と、精神疾患の安易な関係付けのないよう、精神疾患と障害の正しい理解に基づいて、慎重に正確な取材による報道を切にお願いいたします。

ソフト面では精神疾患と障害への無理解と偏見、いまだ十分とは言えない地域支援、孤立しがちな現実などの背景についても、報道にたずさわる皆様の冷静な取材と究明と理解をお願いしたいと思います。

「障害があっても地域で当たり前暮らすことができる」共生社会を進めるために、報道に携わる皆様には、精神疾患と障害を持つ人たちと、地域医療と当事者家族の地域の暮らしに優しい目を向けていただくことができるよう念じて、ここをお願いする次第です。

#### 2. 安全性をふまえたビル管理と構造の対策につながる、取材と原因究明の報道を

この度のような悲劇を繰り返さないためには、まずハード面で複数の避難口、スプリンクラー設置などビル構造の改善など多方面からの検証と対策が進むよう慎重で多面的な検証報道を切にお願いする次第です。この事件の恐怖から通院を控えることにならないよう、地域で偏見なく安心して医療を受けることができることを願って、報道機関の皆様にご理解をお願いする次第です。

# 家族の思い出

## 障害の娘と共に

ペンネーム H・F

現在29歳の娘は、16歳の時に家に引きこもりになり、昼夜逆転の生活が始まり、家の中で暴れる生活が3年近く、家の中が大変でした。その後クリニックに通うようになり、軽度の知的障害と発達障害と診断されました。

とにかく自傷行為がはげしくて、リストカット、ベランダから飛び降りたり、電車に飛び込もうとしたり、私は食事もできないし、夜も寝させてもらえない日が続き、フラフラになりながら娘をみていました。家には何回も救急車、警察が来て、かと言って入院させてもらえず、へとへとになってもう限界の時、クリニックから救急車を呼び、やっとの事で入院させてもらって、ホッとしたのも束の間、2日後には病院を脱走して家に帰って来る始末。もう入院できないのかと困っていた時、当時つきあっていた彼氏に「病院に戻りなさい」と言われ、しぶしぶ入院する事になりました。そこから入院のくり返しが始まりました。入院すれば落ち着くかと思いきや、退院して帰ったとたん、パソコンを投げたり、テレビを壊したり、あばれる始末、もう地獄でした。

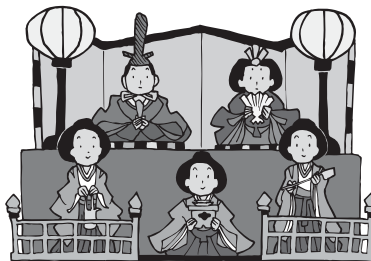
それから通信制の学校に通う事になり、入院しないと登校は認められないとの特例で、病院から学校に通うことになりました。入院代、学費、交通費、ものすごいお金もかかりましたが、何とか娘に高校を卒業させたい思いで必死でした。が、やはりそれも続きません、結局、退学。どうしたらいいのか方向性も見えず、就労支援の方にお世話になりました。が、

何をやってもダメでドクターも困り果てて、結局、家で見守る事はできない為、ようやく今のグループホームに入所させてもらえる事になりました。

支援の場も大きく広がりました。入所してからも数えきれない程いろいろありました。ホームに帰って来なくて行方不明になり、何度も警察に行方不明届けを出しに行ったり、突然倒れて救急車を呼んだり、パニック発作ではだしで突然外に出て行って帰って来なかつたり、それでも、支援者の方が本当に良くしてくださり、あの子と根気よくかわつてくださって、本当に感謝しかありません。

私自身も何でこんな事ばかりするのか嘆いてばかりいました。親の会で相談のつてもらったり、支援者の方にもいろいろ教えていただいたり、自分なりに勉強して、今はあの子が私に人生の真髄を教えてくれているんだ。あの子がいなかったら、人をうわべで判断するよ。うな傲慢な人間になっていったんだと思います。あの子が私にそれを教えてくれる為に生まれてきてくれたんだ、と思えるようになりました。

今も相変わらず、グループホームに帰ってこなくて行方不明になったり、突然、解離状態になって、救急車を呼んだりします。本人も辛いんだと思います。パーソナリティ障害とも言われ、廻りをふりまわします。今の私の課題は何があるかと一喜一憂することなく、少しでも前に進めればいいなと思います。



## 大家連精神保健講座 令和三年度 圏域交流会

### ZOOMセミナー

ウイズコロナの状況下で大家連精神保健福祉講座や他団体の講演等も全てオンラインとなり、今後更にZOOM(パソコンやスマホを用い会議や講演ができるアプリ)を多用していくことになるかと考えられます。オンラインを使う時代に合わせて活動を行う力を身に付ける必要があります。そのため今年度の圏域交流会は「ZOOM基礎セミナー」を大阪府の助成金を利用して実施。参加25家族会、16回開催(11月〜12月)、参加総数約84名、Wi-Fi環境のある会場を各家族会で準備していただき、参加者は各自のノートパソコンやスマホを使って基本操作から学びました。講師は「NPO法人きんきうえぶ」と、「コーポラティブまいど」にお願いしました。

#### 【参加者の感想】

講師の説明は分かり易かった。理解できたので練習します。  
楽しく学ぶことが出来ました。  
ZOOMに繋がることが出来、みんなで拍手しました。  
仕組みが理解できとても勉強になりました。親切丁寧に教えていただき感謝しています。とても便利で家族会で活用していきたいです。  
大変興味深く参加できました。  
個別に教えて下さったので理解しやすかったです。

(文責 佐野朋慶)

2021年度の賛助会費報告

年会費をいただきました。ありがとうございました。  
賛助会費 (103千円/年)として

|     |    |
|-----|----|
| 3人分 | 30 |
|-----|----|

(寄附)

大家連へのご支援、大変ありがとうございました。

| 氏名              | 地域    | 金額      |
|-----------------|-------|---------|
| 金岡中央病院          | 堺市    | 30,000円 |
| (匿名)            | 八尾市   | 30,000円 |
| 雑賀好子            | 泉佐野市  | 3,000円  |
| 久米田病院           | 岸和田市  | 30,000円 |
| 三上裕司            | 枚方市   | 10,000円 |
| 近畿大学医学部精神神経科学教室 | 大阪狭山市 | 10,000円 |
| 和泉丘病院           | 和泉市   | 10,000円 |
| 青葉丘病院           | 大阪狭山市 | 30,000円 |
| 上島医院            | 大阪狭山市 | 10,000円 |
| 仲宗根康江           | 吹田市   | 10,000円 |
| うえのメンタルクリニック    | 東成区   | 10,000円 |
| 小曾根病院           | 豊中市   | 30,000円 |
| ながいクリニック        | 藤井寺市  | 10,000円 |
| 野崎クリニック         | 豊中市   | 5,000円  |
| 田中亜紀            | 阪南市   | 10,000円 |
| 石田クリニック         | 寝屋川市  | 10,000円 |
| 新川久義            | 富田林市  | 5,000円  |
| かわすみクリニック       | 鶴見区   | 10,000円 |
| 三家クリニック         | 寝屋川市  | 10,000円 |
| キム診療所           | 東成区   | 10,000円 |
| 大阪さやま病院         | 大阪狭山市 | 30,000円 |
| 医療法人 遊心会        | 淀川区   | 10,000円 |
| 青谷クリニック         | 高槻市   | 10,000円 |
| 悠々会             | 高槻市   | 2,000円  |
| 東 泰敬            | 泉佐野市  | 1,000円  |
| 東布施辻本クリニック      | 東大阪市  | 10,000円 |
| メンタルクリニックおかだ    | 阿倍野区  | 30,000円 |
| 松浦直美            | 三島郡   | 3,000円  |
| 仲宗根康江           | 吹田市   | 10,000円 |
| はしろクリニック        | 北区    | 5,000円  |
| 小林温             | 東淀川区  | 3,000円  |
| 三家クリニック         | 寝屋川市  | 30,000円 |
| 野崎クリニック         | 豊中市   | 5,000円  |
| 京谷クリニック         | 西区    | 10,000円 |
| 中畑俊朗            | 岸和田市  | 5,000円  |
| 西村クリニック         | 東大阪市  | 10,000円 |
| 柏木美和子           | 八尾市   | 10,000円 |
| 松林 昇            | 大阪市   | 3,000円  |
| 堀江澄子            | 柏原市   | 2,000円  |
| 小池診療所           | 豊中市   | 10,000円 |
| やまもとクリニック       | 西区    | 10,000円 |
| 足立康子            | 吹田市   | 3,000円  |
| 新川久義            | 富田林市  | 5,000円  |
| 中西クリニック         | 旭区    | 10,000円 |
| 羽田信子            | 寝屋川市  | 3,000円  |
| 医療法人 いちえ        | 吹田市   | 10,000円 |
| 奥野 保            | 茨木市   | 10,000円 |
| さわ病院家族会         | 豊中市   | 5,000円  |
| 中安輝雄            | 門真市   | 3,000円  |

(令和3年11月11日～令和4年2月2日)

2021年度の共同募金配分金54.1万円が決定しましたのでお知らせします。  
共同募金の寄付による配分金でだいかれん誌の発行が成り立っています。  
寄付下さった皆さまに心よりのお礼申し上げます。  
又、会員の皆さまには赤い羽根共同募金へのご協力をお願いします



編集人 公益社団法人大阪府精神障害者家族会連合会 会長 倉町 公之  
連絡先 〒540-0006  
大阪市中央区法円坂1-1-35  
アネックスパル法円坂(A棟4階)  
Tel 06-6941-5797  
Fax 06-6945-6135  
ホームページ daikaren.org  
だいかれん で検索もできます  
振込先 郵便振替 00970-4-72221  
公益社団法人大阪府精神障害者家族会連合会  
定 価 1部100円(大家連家族会費には購読料を含む)  
発行人 関西障害者定期刊行物協会  
大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル4階



編集後記

▼「長生きする」ということは訃報をたくさん受けるということ。誰かの言葉だったかな。

今年「喪中欠礼」が十通に達した。彼岸に去った知己を想いつつ、私事いたずらに馬齢を重ねて米寿を迎える。「親亡き後」の当事者の生き様に思いをめぐらせて良い年であれかしと願う越年であった。

(編集委員 奥村 昭)

▼コロナ禍の一日も早い収束を願う注意を払い生活していたが、まさかの濃厚接触者PCR検査を受けることに。十四日間自宅待機で結果待つ。陰性でホッとすると今度は唾液検査せよと。毎日検温し気分は薄ら寒く布団にもぐる日々。陰性連絡が入り心ゆるみ笑顔で

る。今は十日間に短縮されたとはいえ、決して短くはない。三回目のワクチン接種が始まった。自分が感染し周りに迷惑かけない為にもよく考えて行動したいです。

(編集委員 M・K)

▼「おうちプロジェクト」から早1年、1歳の孫のお喋りは家族を笑顔にしてくれる！

でもうつ病のパパの口から出てくるのは、ネガティブなフレーズばかり！  
私もそろそろ慣れてもいいんだけど、やっぱりしんどくなる。  
い・つ・ま・で聞けばいいの〜!!

(編集委員 K・I)

▼オミクロンとこの寒さで、自粛も苦ではな

かった私も、さすがに気分が落ち込みました。「これではいかん！」と近所のショッピングセンター内をうろろるとウォーキング。「しまむら」(洋服屋さん)で明るい色の服を買いました。これを着て「明日はどっこい!」どんな気分転換をしていますか?

(編集委員 D)

▼「グループホームの再編に反対」の署名活動には、多くの家族会が取り組まれました(感謝)。しかし、署名の集約について明確にしていませんでしたので、署名の提出先が大家連や地域の障害者団体や署名の事務局などに分かれて、大家連としての署名数の把握ができませんでした(反省多々有り)。

(編集委員・会長 倉町公之)